

新技術名：交信攪乱による主要害虫の防除法（平成2～6年）
（ハマキコン、シンクイコンの実用化）

④・参

研究機関名 果樹試験場環境部虫害担当
担 当 者 高橋佑治・舟山 健

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

リンゴコカクモンハマキやミダレカクモンハマキ等のハマキムシ類と、モモシンクイガの防除対策として、性フェロモン剤利用による交信攪乱法での防除の可能性と農薬使用を削減した場合の防除効果を検討した。

○経過と方法

場内と現地のリンゴ園を用い、交信攪乱剤のハマキコンとシンクイコンを成虫発生前の5月末までに、10a当り150本を手の届く範囲に80%、樹上部に20%を取り付け、モニタートラップによる交信攪乱効果と被害果の発生状況を調査した。

○技術の要旨

通常の発生密度（年間の総誘殺数がリンゴコカクモンハマキで250頭、モモシンクイガで100頭）以下であれば交信攪乱法だけで防除が可能になり、殺虫剤を削減できる。平成7年度防除基準に採用した。

(2) もたらされる効果

ハマキコンは県内で発生しているリンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴモンハマキに有効であり、ハマキコンとシンクイコンの処理で殺虫剤の削減が可能になり、環境にやさしい防除法である。

(3) 普及対象範囲

県内全域

(4) 普及上の留意事項

1. ハマキコン、シンクイコンとも処理面積は広いほど効果的であるが、最低20a以上を確保する。風通しが良く狭い園地や急傾斜地では効果が劣る。
2. 発生密度の高い園地では慣行防除に上乘せして行い、密度低下後に殺虫剤を削減する。
3. 成虫発生前に処理する。

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表-1 ハマキコン処理の効果 (平成5)
モニタートラップによる誘殺消長と被害状況

月	場内		現地		
	ハマキコン処理	無散布区	ハマキコン処理	慣行防除	
6	1	112	1	190	
7	1	56	0	54	
8	4	283	2	89	
9	0	65	4	101	
10	0	1	1	10	
計	6	517	8	444	
被害新梢率	11.1	7.0			7/20調査
被害果率	1.0	5.3	0.7	0.9	11/8調査
薬剤散布	両区共無散布		処理区殺虫剤4回削減		

表-2 シンクイコン処理の効果
モニタートラップによる誘殺消長と被害状況

月	場内 (平成6)			現地 (平成5)	
	シンクイコン処理	慣行防除	無散布	シンクイコン処理	慣行防除
6	1	6	27	0	1
7	0	11	140	0	22
8	1	38	103	0	44
9	0	27	46	0	0
計	2	82	316	0	67
被害果率	1.4	0.2	100	0	0
薬剤散布	削減	合ピレ剤使用		削減	合ピレ剤使用

発行年月	9506	キーワード	253
基礎分類	35	キーワード	
作目名	35	キーワード	